

議 事 録

件 名		第6回 町田市下水道ビジョン策定懇談会
日 時		2011年7月14日(木) 13:30～14:45
場 所		成瀬クリーンセンター 新館会議室
出席者 (敬称略)	委 員 *:会長	高千穂 安長委員*、長岡 裕委員、松本 暢子委員、 市古 太郎委員、盛永 久恵委員、松田 英行委員、 石川 旭委員、渡辺 洋委員
	上下水道部	渋谷部長、工務課 福田課長、業務課 稲田課長、 水質管理課 細野課長、水再生課 河原課長
	事 務 局	上下水道総務課:小山課長、須原担当課長、川畑係長、 町田担当係長、保屋野、野沢
議 題	1 下水道アクションプラン案について 2 その他(報告事項)	
議 題		
議題 1 下水道アクションプラン案について		
報告内容	<p>■ 前回懇談会(11/4/28)の下水道アクションプラン案からの修正点について報告を行った。</p>	
意見等	<p>■ 表現等細かいところについて、まだ修正の余地が有る。また、市民に分かりにくい専門的な用語があちこちに見受けられる。 →用語解説を加えることも含め、次回懇談会までに対応したい。</p> <p>■ 今後、電力供給が不安定になることが考えられるが、このことへの対応策は。 →成瀬クリーンセンターの自家発電設備の容量が足りないことから、設備の更新に合わせて容量の増強を考えている。</p> <p>■ 下水処理場の汚泥から放射性物質が検出されたというのがニュースになっていたが、町田ではどうなのか。検出されている場合、アクションプランの中で何らかの対応が必要となるのか。 →町田でも汚泥から放射能は検出されているが、8,000ベクレル以下となっており埋立て可能な値である。現時点では、特に対応策は考えていない。</p> <p>■ P.7の市街化調整区域の汚水処理のところに2017年度からの事業着手という記述があるが、住民に過度の期待を与えてしまうのではないかと。もう少し慎重な記述が必要では。 →再度、表現を検討したい。</p> <p>■ 事業計画一覧表で市民等利用者への働きかけの継続事業が記述されているのは承知しているが、P.8を見ると合併処理浄化槽のことだけとなっていて、取り組みが伝わりづらい。他の取り組みも記述した方が良いのでは。 →検討したい。</p> <p>■ P.11の成瀬クリーンセンターの耐震化率はどういう意味か。施設の重要度を加味したものとなっているのか。 →施設の重要度を加味して耐震化率を表すのは難しく、ここでは耐震化した施設の床面積を全体の床面積で除して算出している。</p>	

意見等	<p>■P.11のBCPの策定についてだが、計画策定がゴールのように見える。策定し、運用する中で随時見直しすることが求められており、PCM(事業継続マネジメント)の観点も加えた方が良い →修正する。</p> <p>■P.12の下水道管の延命化の目標が更新延長で表されているが、全体の割合で表せられないか。 →%で表示をすると1%以下の数値になってしまい、事業の進捗度が伝わりづらいことから、延長での表記とした。</p> <p>■下水道管の延命化をもっと早く進めないと、老朽化がどんどん進んでしまうのでは。 →下水道事業開始初期に埋設された鶴川団地の管を調査したところ状態は良かったことから、全体的にはそれほど老朽化は進んでいないと考えている。そのため、延命化事業は状態の良い地区から順次進めていく予定である。</p> <p>■新公会計制度導入と歳入・歳出の関係があまり見えない。これまでと大きく変わるのではないか。 →新公会計制度を用いて財政の健全化を目指すのが、スタートしてからでないとその効果は分からないことから、ここでは現会計制度のもとでの財政見通しとした。</p>
検討結果	<p>■次回懇談会までに必要な修正を行う。</p>
<p>次第 2 その他(報告事項)</p>	
報告内容	<p>■パブリックコメントを8月1日～8月31日までの1ヶ月間、市内25箇所の窓口で実施する。</p> <p>■10月に行われる町田エコフェスタでの下水道事業PR活動の内容を説明した。</p>